

書香

1998. 10. 20

No. 32

目 次

- ◎高岡高等商業学校蔵書
(経済学部助教授 長谷部 宏一) …………… 1
- ◎ **諸 報**
- 都会の昼寝, 田舎の勤勉
(附属図書館長 小谷 仲男)
—『宮崎市定全集』全25巻—…………… 2
 - リニューアルオープン後の図書館サービス充実への
取組について
(附属図書館事務部長 竹若 重勝) …………… 3
 - 初代ヘルン文庫の設計図をめぐって
—本当に山口蚊象氏の設計か, 復元の可能性も—………… 7
 - 人文・社会科学系雑誌の図書館への集中化にむけて………… 8
- ◎ **ニュース**
- 附属図書館利用説明会を実施 …………… 8
 - <大学開放事業>ヘルン(小泉八雲)文庫来富75年展
—夢大学 in TOYAMA' 98報告—…………… 8
 - 南日康夫氏が来館…………… 9
 - 「本学教官著作寄贈図書案内」欄について…………… 9
- ◎ **シリーズ**
- 《CD-ROM 情報検索サービスの紹介(XII)》…………… 10
 - 附属図書館統計(平成7年度～平成9年度)…………… 12
 - 参考図書案内…………… 14
 - 自然科学系図書資料の紹介…………… 15
 - 図書館関係会議…………… 16
 - 平成10年度附属図書館商議員名簿
(平成10年9月15日現在)…………… 16

高岡高等商業学校蔵書

経済学部 助教授 長谷部 宏一 (はせべ こういち)

富山大学経済学部には、高岡高等商業学校蔵書がある。経済学部の前身の旧制高岡高等商業学校が持っていた書籍が、新制富山大学の発足とともに富山大学図書館そして経済学部を受け継がれたものだ。ここで高岡高等商業学校蔵書の内容について簡単な紹介を試みる。今回の紹介は、和書単行本のみということになるが、和雑誌、洋書単行本、洋雑誌については他日を期したい。

旧制高岡高等商業学校は1924年(大正13年)に全国で13番目の高等商業学校として発足したが、太平洋戦争中の1944年、高岡工業専門学校への改変によってその歴史はとざされた。しかし、高岡高商の遺産は戦後にも受け継がれた。それは、第一に高岡高商教員が、1949(昭和24)年発足の新制富山大学で文理学部経済学科教員として教鞭を

とりつづけたことであり、第二に高岡高商蔵書が富山大学図書館蔵書そして経済学部蔵書として受け継がれたことである。つまり、高岡高等商業学校蔵書は、高商発足の大正の終わりから工専へ改変された太平洋戦争末期までの出版物がその主要な内容である。

それでは、高岡高等商業学校蔵書の中身を見てみよう。高岡高等商業学校蔵書は和書単行本・洋書単行本をあわせて約2万冊、和書約1万冊洋書約1万冊という構成である。そのほか和洋雑誌が約4万冊ほど所蔵されている。和書単行本の内容を見ると、第一の特質は旧「満州」・旧植民地関係の報告書統計書が含まれていることだ。旧「満州」・旧植民地関係の書籍は約800冊で数の上からはそれ程のボリュームはないが、珍しい資料が含

まれている。例えば『昭和製鋼所二十年史』などは私が、これまで目にしたことのない非常に珍しい資料である。富山大学で出会おうとは思ってもよらなかった。第二に、高等商業学校であったためなのだろうか、産業関係の本でも流通、金融、保険などについての書籍は充実しているが、製造業に関するそれが非常に貧弱なことである。第三に昭和初年から昭和十年代にかけての商法・会社法・民法についての書籍が目につく。これは我が国が準戦時体制から戦時体制に突入していくなかで、戦争遂行のために政府が既存の会社法・商法・民法などに大幅な改変を加えていったことの反映であるかもしれない。

諸 報

都会の昼寝、田舎の勤勉

— 『宮崎市定全集』全25巻 —

附属図書館長 小谷 仲男

『宮崎市定全集』（岩波書店）は日本を代表する東洋史学者の宮崎市定（1901-1995）の全著作集である。宮崎市定が満90歳を迎えた1991年10月に刊行をはじめ、ほぼ毎月一冊の割で配本し、1994年2月に無事全25巻の刊行を終えた。毎巻末に著者自身の跋文が添えられている。その巻に収録された作品に対し、著者自身の最近の心境を綴る。いずれも長文で、年令を感じさせないフレッシュな味わいの文章である。そして翌年1995年5月に、94歳で永眠した。

私は京都大学三年のとき、東洋史専攻生として主任教授の宮崎市定にめぐりあった。先生は東洋史新入生を前に、「よく来た。都会（みやこ）の昼寝は田舎の勤勉に勝るといことわざがある。ここで本気になって勉強すれば大成できる。」と、表現は正確に覚えていないが、そのような意味のことばで歓迎してくださった。うれしい思いがしたが、やや複雑な気持ちにもなった。都会は努力

では最近の高岡高等商業学校蔵書の利用状況を一瞥しよう。貸出記録を取り始めてから現時点までの高岡高商蔵書からの貸出冊数は283冊、利用者は18人であり、過去一年間では、貸出冊数13冊、貸出者数5人という状況である。

和書単行本に限っても見ても上述のように旧「満州」関係資料をはじめ貴重な資料が多く含まれる高岡高等商業学校蔵書は、旧植民地研究、法制史研究、経営史研究、経営学学説史研究、経済史研究、社会史研究にもっと盛んに利用されるべきではなかろうか。最後に、本学の教官並びに全国の研究者各位に、高岡高等商業学校蔵書のさらなる利用を訴えて本稿を終えたい。

しなくとも、多くの知識、情報が自然に耳から入ってくるが、田舎ではどんなに努力しても追いつかない。「努力すれば、報いられる」と単純に考えていた地方出身の私には、あらためて田舎のハンディを思い知らされた。

『宮崎市定全集』巻23、「随筆」上のなかには、自分の郷里を語った「信州飯山在」や自叙伝風の「来し方の記」などの文章が収録されている。宮崎市定の生まれ育ったところは日本海側に近い長野県飯山市の山里であった。高等学校（旧制）に進学するために松本に出て、都会の友に出会い、刺激された。松本高等学校を卒業すると、東洋史を研究するために京都に出て京都大学に進み、優れた教授たちにめぐりあった。大学に奉職して35歳の時、文部省の在外研究員として2年間フランスの花の都パリに遊学した。その都度、田舎者のハンディを感じながら、「しかし、だんだん場数を踏んでくると、近頃はかえって田舎者であるこ

とが自慢に思えるようになって来た」とさえ書いている。人生や学問には都会の文化の華麗さ、便利さとともに、軽薄さも見抜く力が必要である。

私は東洋史を学ぶのに恵まれた環境の京都大学で13年間を過ごし、地方の大学に就職した。学問の中心地を離れて自分の研究をどのように持続し、発展させていったらよいか、また地方大学の学生諸君にどのように接したらよいか、それが今も昔も私にとって大きな課題であり続ける。幸い1970年代の初め頃からコピー機が普及しはじめ、わずかな時間と経費の負担で、地方で入手できない研究文献をコピーして読むことが可能となった。また近年中国、台湾から大量の漢文書籍が写真印刷という複製技術で復刻され（影印本）、またよく利用される書籍はあらたに句読点を施して出版され（標点本）、大学図書館でも、個人でもそれら

を蔵書することが可能となった。一昔のように京都、東京を離れては研究が続けられないという状況は解消した。ただ図書館の情報は自ら努力して本を探し、読まないことには出てこない。学生諸君はまず教官の講義に耳を傾け、図書館で関連の本を見つけだし、それを活用して自己の知識、思想を豊かにしていただきたい。現在では、田舎の勤勉が都会の昼寝に勝ることだけは保証できる。

* 『宮崎市定全集』25巻は早くに売り切れ、現在は入手不可能である。富山大学附属図書館には3部が所蔵され、一階の学生用図書書架に1部、四階の専門図書（歴史）書架に2部が配列されている。宮崎市定の著作は全集以外に単行本の形で既に多くが図書館に所蔵されており、また最近では中公文庫（既刊14冊）をはじめ、岩波文庫、河出文庫としても出版されているので、利用しやすい。

リニューアルオープン後の図書館 サービス充実への取組について

事務部長 竹若 重勝

◎はじめに

本学の附属図書館は、長年の願いであった増築が文部省をはじめ多くの関係者の尽力により平成9年2月にめでたく完成し、同年5月にリニューアルオープンすることができ早や1年5か月が経ちます。

附属図書館には、その設置目的から大学の教育研究活動を支援する中枢的機関としての使命があるのですが、最近はそれ以外に国民の生涯学習機会の充実等として「地域社会に開放された大学図書館」への社会的要請があります。更に近年の日ざましい高度情報化社会の進展や大学改革の推進にどのように対応していくか、非常に切迫した多くの課題があります。にもかかわらず、国の行財政改革が進められている中で、国立大学に対する

世論は一段と厳しくなる一方であり、図書館サービスを如何に充実するかを考えるにとりましては苦悩の日々が続いております。

しかし、我々はこのような事態であっても手を拱いてばかりではおれません。図書館という組織体が一丸となって、学内外の支援・協力を得ながら図書館が保有するありったけの経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を最大限かつ有効に活用して重要な使命を果せねばと考えております。

来年は本学を含めて新制大学の殆どが開学50周年という節目の年を迎えます。この年を目標に、本学の附属図書館はいくつかの新しい取組に挑んでおります。これから紹介する取組が次のステップへの踏み台となればと願っております。私がこの「書香」No.30（1997.10.31発行）で述べました

大学図書館としての三つの機能区分に沿って紹介
します。

1 伝統的図書館機能

(1)全面開架方式への切替

書庫に利用者が自由に入り、図書資料を直接手に取ってみることができ、図書館職員の業務の見直しにつながった。しかし、このサービスには、閲覧したと思われる図書資料が元の位置に戻されているかどうかのチェック業務が必要となった。

(2)学術雑誌の集中化・共同利用化の促進

増築後、新館2・3階に電動式集密書架が導入されたことに伴い、今まで研究室等に分散していた学術雑誌を、この際附属図書館の方に移すことにより一層集中化・共同利用化が図れる。

(3)川合文書目録及び小泉八雲関係文献目録の刊行

いずれも平成9年度教育改善推進費（学長裁量経費）によって刊行になった。川合文書目録（A4版：219頁）は加賀藩の農政史に関する古文書の目録で初版刊行である。昭和2年に旧制高岡高等商業学校（本学経済学部の前身）に譲渡された際の旧目録により検索していたが、新目録刊行となったため検索がスムーズに行える。小泉八雲関係文献目録（A4版：375頁）は八雲に関する著書、伝記、研究論文等の目録で約40年ぶりの改訂版刊行である。収集された文献量は初版の目録の約3倍となった。

(4)ヘルン文庫目録の改訂版刊行

本学人文学部・理学部の前身の旧制富山高等学校開校を記念して創設された小泉八雲（ラフカディオ・ヘルン）の旧蔵書である「ヘルン文庫」（2,435冊）の目録は、昭和2年に初版刊行されているが、今年度中に

約70年ぶりの改訂版刊行を予定している。改訂版では目録内容の充実と多様な検索法の工夫を図りたい。

(5)図書館利用説明会の実施

マルチメディア教育の影響を受けて、図書館の利用説明会の態様も変化している。そこで、新入生等を対象として開かれている教養教育の科目「言語表現」の中で図書館利用について図書館職員が説明するクラス別説明会と、これとは別に図書館が主催して行う新入生等を対象とした応募によるメニュー方式説明会とを併行して実施している。今秋には、大学院生等を対象とした最先端学術文献の検索法などより高度な内容の説明会を実施する予定である。

(6)学生用図書購入費増額分の予算執行

商業会委員から年々図書購入費が目減りしていく一方の状況を憂慮し、附属図書館の増築で施設設備の整備がなされたことを機に、学生に読ませたい教養図書、辞典類の最新版等を購入整備することが急務ではないのかとの問題提起があった。これを受けて事務局と協議した結果、平成10年度予算から学内共通経費による学生図書購入費の増額が措置された。教官・学生当校費を財源としているものであり、先生方の御理解と御協力に対し深く感謝したい。勿論十分な予算額といえないまでも、これで附属図書館が主体的に購入計画を立て、商議会での図書選定の承認を得て進めていくことが可能となったのである。またこの機会に学生から購入希望の図書名を聞くことにした。

(7)学生用新着図書及び本学教官等の著書の展示コーナー設置

学生が新着図書に直接目に触れることにより学習意欲を醸し出す効果を狙って、新着

図書の受け入れから配架までの一定期間（1週間程度）館内に展示することを予定している。また本学教官がどのような研究をし、どのような著書を出版しているかは、学生やそれ以外の利用者にとっても関心を持つところであるので、このためのコーナー設置を予定している。

2 電子図書館的機能

(1)川合文書及び小泉八雲関係文献の目録データベースの公開

当館所蔵の特殊資料の電子化については、本学総合情報処理センターの連携・協力を得ながら進めている。大阪大学附属図書館の調べによると、WWW上で見ることのできる特色ある貴重資料の画像データベースを公開している図書館は、当館を含めて28機関あるという。（平成10年3月現在 国立大学17，私立大学5，共同利用機関1，国公立図書館5 合計28機関）

この二つの目録データベースはインターネットで公開している。

(2)川合文書・菊池文書の画像データベースの構築

平成10年度文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」（川合文書・菊池文書データベース）の交付決定を受け、両文書の目録情報と画像情報とを合体させた完成度の高いデータベースを構築するもので、2～3年かけて行う計画である。実施体制としてデータベース作成委員会を組織し、これを支援する事務ワーキンググループもある。

(3)小泉八雲の直筆原稿『神国日本』全文データベースの公開

平成9年度臨時経費により予算措置され、本学総合情報処理センターの支援もあって実現できたものである。他方、総合情報処

理センターの教官による「ヘルン文庫の手書き古文書を題材とした画像データベースの構築」が、平成10年度科学研究費補助金「奨励研究A」として交付決定されているので、これによる検索法などの研究開発が完了すれば、現在インターネットで公開している内容よりは独創的な画像データベースの検索システムが提供できるものと期待されている。

(4)電子ジャーナルのホームページからの情報提供

当館で購読契約している雑誌のオンライン付加サービスとして、このほど電子ジャーナルの最新学術情報をインターネット上で見ることができるようにした（学内専用）。これにより、冊子体よりも約1か月前に最新学術情報を入手できるメリットが生じた。なお、電子ジャーナルの有償の場合の情報提供については、コンソーシアム契約（電子ジャーナルの地域的サービス体制）等の具体化として現在国大図協特別委員会において検討がなされているところである。

3 図書館の生涯学習支援機能

(1)大学開放事業「夢大学 in TOYAMA」への参加

全国的に注目されている大学開放事業（本学地域共同研究センターが企画）に、当館からは「ヘルン（小泉八雲）文庫来富75周年展」と題して今年9月参加した。地域住民から親しまれ利用される大学図書館として広く知られるチャンスと捉え、図書館職員が熱心に取り組んでいる事業の一つである。

(2)附属図書館で開かれる公開講座

当館としては初めての企画で、附属図書館が公開講座に係わるのは全国的に見ても大

変珍しいことである。「小泉八雲と『ヘルン文庫』』という教養講座を4回に亘って本学人文学部の村井助教授が講義を行う。(開催日：平成10年10月22日(木)～11月12日(木)の間で4回)

富山には住んだことのない小泉八雲の旧蔵書がどうして当館にあるのか。小泉八雲の文学研究と「ヘルン文庫」を紹介して、地域住民に関心を持ってもらうのが狙いである。

(3)地域住民の大学図書館利用

当館ではいち早く地域住民への図書の貸し出しを行うなど積極的に対応している。学外利用者はインターネットを通じて、当館のホームページからオンライン蔵書目録(OPAC)を利用することができる。学外者の利用状況は、附属図書館増築前後で比較すると、入館者数が約2.1倍(平成9年度は1,163人)、利用証発行枚数が約1.6倍(平成9年度は84人)、貸出冊数が約2.4倍(平成9年度は420冊)とそれぞれ大幅に増加している。

4 その他の機能

(1)開学50周年の年史及び写真集の刊行

開学50周年記念事業として本学の教育研究の充実を図るために記念特別図書(大型コレクション)及び学生用図書を購入する計画があるほかに、富山大学の50年の歩みを回顧した年史及び写真集を刊行する計画がある。館内に新しく設けた大学資料室には本学の沿革に関わる資料や他大学の年史等を配架している。そうして、年史編纂室が館内に設けられ図書館職員が事務を担当している。年史及び写真集の刊行作業が終了しても、附属図書館内の大学資料室の存在意義を学内で訴え、後世に永く保存すべき

貴重な本学の大学資料等の散逸を防ぐ必要がある。その手はじめとして、全学的な大学資料保存委員会の設置あるいは大学資料の保存基準の策定などが検討される必要があるだろう。

(2)「開学五十周年を迎える大学図書館の取組」と題したPR活動

当館の増築竣工後に新たに取り組んでいる図書館サービスの内容について、学内だけでなく広く地域社会にもPRする必要があると考え、ホームページに掲載するとともに手づくりのリーフレットも作成し、関係方面に配付した。近年、大学は教育研究内容を地域社会に積極的に情報提供すべきであると叫ばれているが、この趣旨に併せて附属図書館が独自に企画したものである。

◎おわりに

以上の当館の取組はささやかなものですが、この実現には事務局・学内教官の親身な後方支援があったからだと深く感謝しています。今後も国の行財政改革は強力に推し進められるでしょうが、少し体がスリムになったにしても、体力を効率的に使いさえすれば、まだまだ効果のあるサービスが提供できるものと信じます。そのためには、図書館職員各人が今日の附属図書館の置かれている状況をよく認識し、たゆまず自己研鑽に努め、職員相互が意志疎通を図り、新しいニーズにも果敢に取り組む姿勢が求められます。更に図書館職員には図書館活動について広くPRをしていくとともに関係者にインパクトのあるアピールを行っていくなど不断の努力も必要であると思います。



初代ヘルン文庫の設計図をめぐって

－本当に山口蚊象氏の設計か、復元の可能性も－

先に「ヘルン文庫所蔵小泉八雲関係文献目録」を編集した際、山口蚊象（やまぐち ぶんぞう）氏設計のヘルン文庫設計図13枚と仕様書が見つかった。当時としては珍しい青焼きの設計図であった。

さて、旧制富山高等学校が創立されて今年で75周年になり、同窓会では式典、イベントを企画されているが、その一つとして「ヘルン文庫が富山にきた経緯」を金沢市在住のヘルン研究家染村絢子さんが執筆されることになった。

染村さんは取材のため3月にヘルン文庫を訪れたが、その際設計図が目にとまり山口蚊象氏なる人はどんな人か、また「馬場はる刀自・胸像建立記念」パンフレットにはヘルン文庫は一度建てられたが湿気の関係から取り壊され、再び建てられたとあるが、山口蚊象氏の設計なるヘルン文庫は壊されたのか、後に建てられた文庫なのか、調査されることになった。

設計図のコピー、初代ヘルン文庫の写真等を持参し上京され、著名な建築家や山口氏の子孫の方に会ったりしたその結果、7月に次のような報告が寄せられた。

山口蚊象氏は昭和の初めにヘルン文庫の外、松江のヘルン記念館も設計されている著名な建築家らしく、子孫の方がアール・アイ・エーという社名で業務を引き継いでおられた。設計図と写真を見せたところ、ヘルン文庫の模型の写真が現存しており、それらと照合したところ、山口氏の設計図で建てられてないという結論に達したという。

6月の末にヘルン文庫を整理していたところ、山口蚊象氏の設計図の複本と見ていた別の封筒から、13枚の外に10枚の別の設計図が見つかった。染村さんと共に調べたところ、設計図には第2案、第3案とがあり、それらのコピーを持って再び状況された。

8月のお盆過ぎに来館された染村さんからの報告によると、写真照合の結果第3案がよく似ているので、ヘルン文庫は山口蚊象氏の設計によるものと確認された。

さらに染村さんと旧制富山高等学校の資料を探索した結果次のことがわかった。

昭和9年12月発行の「富山高等学校彙報 第1号」によれば、八雲図書館建設委員会が設けられ、昭和8年9月14日第1回委員会で同館建設を協議し、10月17日に建設予定敷地に於いて地鎮祭を挙行、特に馬場正治氏、馬場ハル氏が参列されている。当時松江の八雲記念館を設計した新進建築家として令名な山口蚊象氏が10月26日に来校し設計を囑している。昭和9年3月12日に設計図が到着、検討したが経費の都合上設計書の一部を変更、10月5日工事請負人太田松若氏よって起工した。特殊構造の鉄筋コンクリート平屋建で、経費はすべて馬場正治氏の寄付による、とある。

昭和10年5月10日発行の北陸タイムズによれば馬場正治氏から1万円の寄付でヘルン文庫を建築中のところ、10日午後3時落成式挙行とある。

五間四方で鉄筋、床下が高く通気がよく防火、腐食など考慮がはらわれ、中央部に書庫、周囲は回廊となって閲覧でき、白亜式近代美にハーンの趣味を汲んで日本の茶室風を調和した建物とある。

筆者も2度ばかり同文庫に入ったが、文庫は蔵のようで、中央に馬場ハル氏の銅像があった。書棚には梯子が立ててあり、薄暗かった。対照的に回廊は明るかったように思う。残念ながら昭和38年に同文庫は壊され、当時のものは蔵書以外何も現存しない。

7月末に小泉凡氏、旧制高校同窓会の米田副会長、犬島事務局次長がヘルン文庫を訪れ、新装なったヘルン文庫に感激された。

蓮町の馬場記念公園には、南日恒太郎氏や馬場ハル氏など旧制高等学校を記念するモニュメントが建てられているが、ヘルン文庫を復元する案があるという。岩瀬運河と一体化して建てられるとか。あの美しいヘルン文庫が復元できれば大変喜ばしいことである。

（専門員 秋元国男）

人文・社会科学系雑誌の図書館の集中化にむけて

附属図書館の増築は、平成9年2月に竣工し、学術雑誌の集中化に向けて新館の2階及び3階に雑誌情報室が設けられました。平成10年3月には2階理工系雑誌室に電動式集密書架を設置し、従来学部研究室、資料室及び閉架書庫内に分散していた学術雑誌を集中化して配架作業を行っているところです。平成10年9月末には3階人文・社会科学系雑誌情報室に電動式集密書架の設置が完了します。附属図書館には約4,300種の人文・社会科学系雑誌を所蔵していますが、現在閉架書庫の3階及び4階に所蔵しているほか学部研究室や資料室

に分散しています。人文・社会科学分野の教育・研究を遂行するうえで学術雑誌に因るところが極めて高く、しかも情報検索の機能アップ、利用者の情報検索技術の向上さらに大学院の充実等により学術雑誌の利用が増加しています。電動式集密書架を設置することにより増加する雑誌バックナンバーの保存スペースを確保するとともに、集中配架することにより雑誌に自由にアクセスすることが可能となります。

人文・社会科学系雑誌の図書館への集中・共同利用化にご協力をお願いします。

ニュース

附属図書館利用説明会を実施

平成10年度の第1回附属図書館利用説明会を7月8日に図書館6階マルチメディア研修室において行われた。これまでは、主として教養教育の共通基礎科目の言語表現科目を履修している学生を対象に授業の一環として図書館ツアーを行ってきた。今回の利用説明会は従前の図書館ツアーとは別に新たな試みとして次のようなコースを設け、学生自身がコースを選択して参加する方法で実施した。

1. 図書館の利用について
2. 文献・情報の調べ方について
 - ①CD-ROMで調べる
 - ②OPACで調べる
 - ③WWWで調べる

文献・情報の調べ方については、3コースを設け参加者の興味と必要に応じた習得に対応した実習を行った。

<大学開放事業>

ヘルン（小泉八雲）文庫来富75年展 夢大学 IN TOYAMA '98報告

ヘルン（小泉八雲）文庫が富山へ着て75年になるのを記念して、「ヘルン（小泉八雲）文庫来富75年展」として夢大学に参加しました。

小泉八雲が所持していた蔵書は、八雲が死去してからは小泉家により管理されていたが、大正13年（1924）に小泉家より売りに出され、南日恒太郎旧制富山高等学校校長の熱意により、岩瀬の馬場ハル氏が買い取り、同高等学校の開校記念に寄贈され、「ヘルン文庫」として内外の研究者に利用されて来た。

今年で丁度75年となるが、旧制富山高等学校が創立して今年で75周年に当たり、同校同窓会では記念式典やイベントを企画しておられることから、本学も一足先に見出しのような「75周年展」を開催した。

展示内容は、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

の生い立ちや日本へ来るまでの略歴、ヘルン文庫の由来、文庫の内容などのパネル展示、またさすらい人ハーン（八雲）が横浜到着から、松江、熊本、神戸、東京（焼津を含む）などの住居、住居跡、記念碑などの写真の展示でハーンを偲んだ。

文庫内では、ハーンが書いた日本の怪談、民話伝説などの底本となった作品とその図書（和装本）の展示、日頃非公開している「神国日本」の原稿の展示を行った。

初日の9月12日（土）には、高校生や一般市民の方、13日（日）には一般市民の方など両日合わせて353名の来訪者があった。

なおこの後、9月下旬から公開講座が予定されており、併せてその紹介も行った。

11月の文化週間には、学生、教職員を対象に同様な展示を予定している。

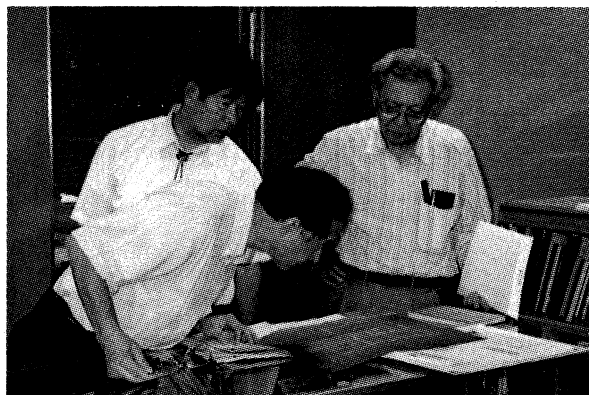
南日康夫氏が来館

(旧制富山高等学校初代校長の南日恒太郎氏の孫)

去る、9月4日、南日康夫氏が来館され、小谷館長の案内により本学所蔵のヘルン文庫を見学された。

南日氏は、現在(財)富山技術開発財団の特別顧問として、また富山工業技術センターの所長という要職についておられ、本学の図書館の学外利用者として今年の3月には既に本学図書館を利用されている。

南日氏の祖父は、旧制富山高等学校初代校長であった南日恒太郎氏であり、ラフカディオ・ハーンの旧蔵書を旧制富山高等学校が譲り受けるにあたり大変ご尽力されたことで知られる。また、父実氏が富山大学工学部教授(工学部長を歴任)でもあったことで、本学とゆかりがある。



初代ヘルン文庫の設計図を見入る小泉氏(写真右)

南日氏のプロフィールを少し紹介すると、東京大学ご卒業後、国連：電気通信連合(ITU)上級専門職を歴任、また、筑波大学副学長の要職もつかれ、平成9年に筑波大学を退官後、現在に至っている。

「本学教官著作寄贈図書案内」欄について

さる7月28日(火)に開催された附属図書館商議会において、委員から本学教官著書コーナー設置について発言がありました。多くの大学でもこの種のコーナーが設置されていますが、当館でもコーナー設置により図書館利用者が本学教官の研究活動等を知ることができるメリットがあり、このたび実現することにしました。このコーナー

こそ先生方の御理解と御協力をいただかないと充実しません。先生方におかれましては、図書が出版された際には附属図書館にも寄贈していただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、先生方から寄贈していただいた図書につきましては、この「書香」でも御案内する予定です。

図書館では学内関係者が執筆した図書資料を収集しています。
出版されましたら是非、図書館にご恵贈下さるようお願いします。



《CD-ROM 情報サービスの紹介 (XII)》

CD-ROM ネットワーク情報検索システム
平成10年度新規サービスについて

平成9年度までのCD-ROMソフトの内容は、「雑誌記事索引」1990-1997（国立国会図書館）、「Social Sciences Index」1983.2-1997、「科学技術文献速報 ライフサイエンス編 1997年版」、「科学技術文献速報 物理・応用物理編 1997年版」の4種類でしたが、平成10年度はさらに新しく「雑誌記事索引」遡及版1985-1989、CD-ASAX 50yrs.（戦後50年 朝日新聞見出しデータベース1945-1995）が加わりました。また「科学技術文献速報 ライフサイエンス編」、「科学技術文献速報 物理・応用物理編」も続けて1998年版が入っています。

☆ソフト案内

「雑誌記事索引」遡及版1985-1989が加わったことにより、より充実した国内学術論文の検索ができるようになりました。

本学図書館では冊子体も1948年-1995年までを所蔵していますが、冊子体は1996年以降発行されなくなったため、それ以降のデータはCD-ROMのみでの検索となります。このソフトはWindows95での接続を確認しています。

「CD-ASAX 50yrs.（戦後50年 朝日新聞見出しデータベース1945-1995）」は戦後50年の朝日新聞の見出しがデータベースになったものです。データは5枚のCD-ROM(1945-1959,1960-1969,1970-1979,1980-1989,1990-1995)に収められており、キーワードを入力するだけで簡単に朝日新聞縮刷版のどこに記事が載っているかを検索することができます。また、調べたい事柄がいつ頃の出来事だったかを検索することもできます。

検索(条件入力)画面は次のようになっています

< 条件入力 >

検索条件を入力して下さい

[全検索]	飛鳥 AND 古墳
[見出し]	
[発行日]	19720301 TO 19720331
[大分類]	
[中分類]	
[小分類]	
[サブ1]	
[サブ2]	
[サブ3]	
[朝夕刊]	
[面]	

58

5737

(条件入力画面)

各フィールドは縮刷版の見出し索引の構造に対応しています。[全検索]は見出しのほか、すべてのキーワードを検索対象にしています。[見出し]は見出し本文のみを検索対象にしています。[分類]は縮刷版で採用されている分類がそのまま分類語となっています。どんな分類語が使われているかわからない場合は、カーソルを検索したいフィールドに移動させ、「ブラウザ」の中の「エントリ」を選択してください。表示された一覧からキーワードを選ぶことができます。普通のキーボード入力の場合には、キーワードは漢字、英数、仮名(全角)で入力してください。

170	アメリカ	OK
89012	スポーツ	キャンセル
11641	運輸	
11536	運輸通信	
11096	家庭	全て選択
18171	家庭面	全て取り消し
21112	外交	キーワード オプション
14762	外国	
181	記事	
78232	経済	
1142	国際	
8489	国土	ヘルプ

(ブラウザ画面)

キーワードが一つのフィールドに複数ある時は、検索の目的にしたがってそれぞれ半角の、「AND」(または「+」)、「OR」(または「,」)、「NOT」(または「#」)で検索語を結びます。[発行日]に日付を

入力する場合は「<」 「>」 「TO」(または「..」)等を使います。検索は前方一致となっているため、入力した語のみを検索したい場合(完全一致)は設定を変更してください。「オプション」の中から「検索オプション」を選び、検索モードを「拡張」から「完全一致」にすれば変更できます。各フィールド間の検索は初期設定で「AND」になっています。これを変更したい場合は「コネクション」を使ってください。「コネクション」を選択すると現在の演算子が左側に表示されます。(下記図)カーソルをキーワードの入力されているフィールドに移動してスペースを押すと「AND」→「OR」→「WITHOUT」の順で入れ替わります。

< 条件入力 >

検索条件を入力して下さい		
[全検索]	AND (飛鳥 AND 古墳)	58
[見出し]		
[発行日]	AND (19720301 TO 19720331)	5737
[大分類]		
[中分類]		
[小分類]		
[サブ1]		
[サブ2]		
[サブ3]		
[朝夕刊]		
[面]		

(フィールドの掛け合わせ)

検索ボタンをクリックし検索を実行させ、さらに表示ボタンをクリックすると見出し一覧が表示されます。(下記図 見出し一覧表示画面)

< 一覧表示 >

検索結果 22 件

1. 法隆寺級の壁画発見 男女像や白虎青竜 七色で大陸系風俗 高松塚
19720327 M 1 847 1
2. 装飾古墳 飛鳥に装飾古墳 (高松塚古墳)
19720327 M 1 847 6
3. 戦後最大の発見の一つ 文化庁田中琢・文化財調査官の話
19720327 M 1 847 10
4. ぜひ早く見たい 原田淑人・日本考古学会長の話
19720327 M 1 847 10
5. 壁画発見に興奮と驚き 「一目実物を」「保存しかりと」 学者らの
19720327 M 3 849 1
6. 変哲もない小さい山 飛鳥に装飾古墳 (高松塚古墳)
19720327 M 3 849 4
7. 飛鳥の装飾古墳 文化庁 緊急調査団 国宝・特別指定も

この表示は一つの記事を見出しと記事の所在情報の2行で示しています。例えばこの一覧表示の一番上の記事は、見出しが「法隆寺級の壁画発見...」で1972年3月27日の朝刊の1面に掲載、縮

刷版では1972年3月号の847ページ1段目にあることを表示しています。一行で表示できない長い見出しを見る場合、またその見出しの分類などを詳しく見たい場合はさらに詳細表示画面に切り替えてください。

< 詳細画面 >

1. 法隆寺級の壁画発見 男女像や白虎青竜 七色で大陸系風俗 高松塚
19720327 M 1 847 1

大分類...文化
小分類...文化財・天然記念物
サブ1...飛鳥に装飾古墳 (高松塚古墳)
見出し...法隆寺級の壁画発見 男女像や白虎青竜 七色で大陸系風俗 高松塚

(詳細画面)

終了はメニューバーの「ファイル」をクリックし「CD-Answerの終了」をクリックしてください。

検索終了後は図書館内にある朝日縮刷版で実際の記事にあたってください。本文はこのデータベースでは見ることはできません。これとは別にスタンドアロンによる館内利用者端末サービスで朝日 HIASK というデータベースを検索することができます。こちらの方は1985年から1996年(8.12現在)までを検索することができ、本文も見ることができます。この2つのデータベースをうまく利用して、1945年から現在までの新聞記事検索を行ってください。なお CD-ASAX 50yrs. は Windows95、Macintosh での接続を確認しています。

☆おわりに

最近ネットワーク対応の CD-ROM 検索の利用者が増え、研究室からの利用申込みも増えています。新しく利用を希望される場合は図書館ホームページ「ネットワーク情報検索システムの利用について」(<http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/cdnet.html>)をご覧ください。

情報サービス課学術情報係 (内線 3706)

—— 附属図書館統計（平成7年度～平成9年度） ——

区 分		平成7年度	平成8年度	平成9年度
蔵 書	和	571,003 冊	583,711 冊	597,008 冊
	洋	265,177 冊	271,648 冊	278,461 冊
	計	836,180 冊	855,359 冊	875,469 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	9,786 種	10,182 種	10,228 種
	洋	4,724 種	4,849 種	4,895 種
	計	14,510 種	15,031 種	15,123 種
年 間 受 入 数	和	13,280 冊	12,708 冊	13,297 冊
	洋	6,396 冊	6,471 冊	6,813 冊
	計	19,676 冊	19,179 冊	20,110 冊
年 間 受 入 雑 誌 数	和	5,066 種 6,049 部	5,332 種 6,232 部	5,594 種 6,516 部
	洋	1,691 種 1,826 部	1,718 種 1,848 部	1,740 種 1,874 部
	計	6,757 種 7,875 部	7,050 種 8,080 部	7,334 種 8,390 部
年 間 製 本 冊 数 及 び 金 額	冊 数	4,697 冊	4,830 冊	4,636 冊
	金 額	7,609,138 円	7,779,615 円	7,867,478 円
奉 仕 対 象 者 数	学 生	7,372 人	7,470 人	7,402 人
	教 職 員	803 人	814 人	1,163 人
年 間 入 館 者 数 本 館	時 間 内	158,651 人 / 開館 274 日	122,509 人 / 開館 216 日	129,820 人 / 開館 275 日
	時 間 外	31,219 人 / 開館 200 日	36,740 人 / 開館 200 日	40,648 人 / 開館 218 日
年 間 入 館 者 数 工 学 専 門 図 書 室	時 間 内	83,355 人 / 開館 275 日	93,024 人 / 開館 305 日	86,340 人 / 開館 302 日
	時 間 外	12,548 人 / 開館 199 日	16,833 人 / 開館 238 日	17,992 人 / 開館 236 日
年 間 館 外 貸 出 冊 数 本 館	学 生	17,017 人 / 33,868 冊	15,704 人 / 36,348 冊	15,919 人 / 38,547 冊
	教 職 員	3,769 人 / 23,234 冊	2,548 人 / 20,805 冊	2,815 人 / 32,688 冊

区 分		平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	
年間館外貸出冊数 工学専門図書室	学 生	8,030 人 15,653 冊	6,808 人 13,805 冊	5,956 人 12,493 冊	
	教 職 員	3,069 人 5,232 冊	1,971 人 4,212 冊	893 人 2,692 冊	
参 考 業 務 利 用 件 数 (利用者別)	学 生	2,850 件	4,732 件	3,663 件	
	教 職 員	4,790 件	4,520 件	3,118 件	
	学 外 者	1,136 件	1,324 件	2,433 件	
参 考 業 務 利 用 件 数 (業務内容別)	文献所在 調 査	5,092 件	6,029 件	5,319 件	
	事項調査	1,169 件	2,431 件	938 件	
	利用指導	2,515 件	2,116 件	2,957 件	
相 互 貸 借 現 物 相 互 貸 借	貸	国内	314 冊	415 冊	396 冊
		国外	0 冊	0 冊	0 冊
	借	国内	88 冊	113 冊	192 冊
		国外	0 冊	0 冊	1 冊
文 献 複 写	学 内	1,346 件 12,617 枚	2,810 件 28,524 枚	2,719 件 30,428 枚	
	学 外	受託	4,618 件 40,160 枚	3,669 件 30,778 枚	1,880 件 14,676 枚
		依頼	3,650 件 34,746 枚	3,446 件 28,313 枚	3,936 件 34,619 枚
図 書 館 職 員 数	総 数	29 人	29 人	29 人	
	定 員	19 人	19 人	19 人	
	定 員 外	10 人	10 人	10 人	
図 書 館 職 員 1 人 当 奉 仕 対 象 者 数	定 員	431 人	436 人	451 人	
	定 員 外 含 む	282 人	286 人	296 人	
図 書 館 資 料 購 入 費 (千円)		157,744 千円	159,694 千円	189,318 千円	

参 考 図 書 案 内

平成9年度に購入しました開架閲覧室備付けの参考図書は、下記のとおりです。
多くの利用をお待ちしています。

1. ブリタニカ国際年鑑 1997
2. 六法全書 平成9年版
3. 国際連合世界統計年鑑 第41集
4. 図説本と人の歴史事典
5. 日本国勢図会 '97-'98
6. 近代日本社会運動史人物大事典 全5巻
7. 研究者・研究課題総覧 1996年版
8. 大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 ('88-'95) 全10巻
9. グランド新世界地図 1996
10. 高分子分析ハンドブック
11. 日本書籍総目録 1996
12. 国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録 1994年末現在
13. 会計全書 平成9年度
14. 法律学小辞典 新版
15. 新明解国語辞典 第4版
16. 大きな活字の三省堂国語辞典
17. 図書館年鑑 1997
18. 日本分県地図地名総覧 平成10年版
19. 全国試験研究機関年鑑 '97-'98 全4巻
20. 学術雑誌総合目録 和文編 1996年版
21. 家政学事典
22. 家政学用語辞典
23. 人間生活ハンドブック
24. 全国郷土玩具ガイド 全4巻
25. オックスフォードオペラ大事典
26. 広辞苑 第4版
27. 用字用語新表記辞典
28. トレーニング科学ハンドブック
29. 音楽大事典 全6巻
30. エレクトーン事典
31. 和英英和家政学用語集
32. NHK 世論調査事典
33. 発達障害指導事典
34. 新日本分県地図全国地名総覧 平成10年度版
35. 著作権台帳文化人名録 第24版
36. 遊びの大事典 全2巻
37. 海洋大事典
38. 英語語源辞典
39. 問題解法幾何学辞典 第2版
40. 幾何学大辞典
41. 化学辞典
42. 環境微生物図鑑
43. 会計学辞典
44. 経営学大辞典
45. 英和会計経理用語辞典
46. 日本会社史研究総覧
47. 法令用語辞典
48. 新法学辞典
49. 有斐閣法律用語辞典
50. 角川必携漢和辞典
51. 日本史広辞典
52. 角川日本史辞典
53. 新編英和活用大辞典
54. 分子細胞生物学辞典
55. 日本カエル図鑑
56. 森林の百科事典
57. 美術名鑑 1997年版, 1998年版
58. 国語年鑑 1997年版
59. 分析化学便覧
60. 地球環境ハンドブック
61. 日中英電気対照用語辞典
62. 日中英機械対照用語辞典
63. ステンレス網便覧
64. 人物レファレンス事典 古代・中世・近世編 新訂増補版 全2巻
65. 人物レファレンス事典 現代編 全3巻
66. 日本人名典拠録 全2巻
67. 西洋人物レファレンス事典 全10巻
68. 中国人名事典：古代から現代まで
69. 現代韓国人名録
70. 英和経済用語辞典 新版
71. 最新英和経済ビジネス用語辞典
72. 中英日自然科学用語辞典
73. 社会学小辞典
74. 国際関係図書目録 45/94 全6巻
75. 美術家索引 西洋編
76. 日本社会衛生年鑑 全26巻
77. 角川漢和中辞典
78. 郷土資料事典：ふるさとの文化遺産 全47巻
1. The year's book in English studies. Vol.75
2. Encyclopedia of library and information science. Vol.60-61
3. Britanica book of the year. 1997
4. oxford student's dictionary of current English. 2nd ed.
5. CRC handbook of chemistry and physics : a ready-reference book of chemical and physical data
6. Annual bibliography of English language and literature. Vol.70
7. Annual review of microbiology. Vol. 51
8. The Oxford dictionary of the Christian Church. 3rd ed.
9. The world of learning. 48th ed.
10. Wer ist wer? Vol.36
11. International encyclopedia of government and politics. Vol.1-2
12. Solid state physics : advances in research and applications. Vol.51

工学専門図書室

1. アドバンストセンサハンドブック
2. ライフサイエンス辞典
3. プラズマ材料科学ハンドブック
4. 化学計測ハンドブック
5. 応用物理データブック
6. 機械工学事典
7. 精説コンピュータ理工学事典
8. 情報ネットワークハンドブック
9. 移動通信ハンドブック
10. プロセス制御ハンドブック
11. 電地便覧 増補版
 1. Handbook of blood pressure measurement
 2. Handbook of X-ray photoelectron spectroscopy : a reference book of standard spectra for identification and interpretation of XPS data

自然科学系図書資料の紹介

— *Chemical Abstracts Collective Index. 11th and 12th* (化学抄録誌累積索引) について —

この資料は、米国のアメリカ化学会が出版しているもので、文部省より平成9年度特別図書購入費（自然科学系）の配分により、本学が購入したものである。

これは化学全般にわたり、国際的に評価の高い抄録雑誌「Chemical Abstracts」(略称「CA」)の過去5年間の累積索引である。

CAは、全世界で出版された、化学と技術情報の包括的な抄録誌であり、雑誌記事・特許・会議録・学位論文・書籍・総説・技術レポート等の文献のみならず、化学構造式・性質等をも網羅している。

CA 11th Collective Index

Author Index	Vol./-15
General Subject Index	Vol./-19
Chemical Substance Index	Vol./-40
Formula Index	Vol./-14
Patent Index	Vol./- 3
Index Guide	Vol./- 2
TOTAL	93

CA 12th Collective Index

Author Index	Vol./-17
General Subject Index	Vol./-23
Chemical Substance Index	Vol./-51
Formula Index	Vol./-19
Patent Index	Vol./- 3
Index Guide	Vol./- 2
TOTAL	115

図書館関係会議

(平成10年4月～平成10年9月)

◎ 学外関係

- 第49回北信越地区国立大学図書館協議会
期日 平成10年4月23日～24日
場所 福井厚生年金会館
- 平成10年度国立大学事務部課長会議
期日 平成10年5月26日
場所 東京医科歯科大学
- 国立大学図書館協議会公開事業実施委員会
及び理事会(第4回)
期日 平成10年5月28日
場所 東京大学附属図書館
- 第45回国立大学図書館協議会総会
期日 平成10年6月24日～25日
場所 鹿児島大学附属図書館 他

◎ 学内関係

- 第1回附属図書館商議会
期日 平成10年4月21日
場所 附属図書館会議室
- 第2回附属図書館商議会
期日 平成10年5月6日
場所 附属図書館会議室
- 第1回富山大学年史編纂委員会
期日 平成10年6月30日
場所 附属図書館会議室
- 第3回附属図書館商議会
期日 平成10年7月28日
場所 附属図書館会議室
- 第1回写真集作成小委員会
期日 平成10年7月29日
場所 附属図書館会議室

平成10年度附属図書館商議員名簿

(平成10年9月15日日現在)

館長	小谷 仲男	理学部 *	小島 覚
人文学部	東田 雅博	理学部	金森 寛
人文学部	大野 圭介	工学部	小泉 邦雄
教育学部	渡邊 信	工学部	長谷 博行
教育学部	呉 羽長	事務部長	竹若 重勝
経済学部	芳賀 健一	情報管理課長	岩淵 恭幸
経済学部	長谷部 宏一	情報サービス課長	田中 成直

* 理学部 小島 覚氏の退職(10月1日)に伴う商議員の交替
(後任者は東川 和夫氏)